

平成28年度
事業報告書

平成28年4月1日から
平成29年3月31日まで

公益財団法人 真田山陸軍墓地維持会

平成28年度 公益財団法人 真田山陸軍墓地維持会 事業報告書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

今期は公益財団法人へ移行後4年目の事業年度となり、各公益目的事業を積極的に進めた。前年度に引き続き、活動にご理解のある各種団体も頻繁に清掃活動や墓地見学を実施していただいている。万灯会や秋季慰霊祭についても、事前準備から当日の参列まで多くの方に参加いただき、大いに励みとなった。

また、各公益目的事業の内容の充実を図るための財政基盤の強化については、維持会員の入会促進について多くの法人から入会していただき、寄附金の増加につながった。加えて、大口のご寄附もあり、今後の公益目的事業の資金として活用していく。以下に平成28年度の事業計画に基づき、実施した事業の概要について報告する。

1. 事業の実施状況

(1) 慰霊祭の開催による戦没者の崇敬と世界の平和を祈念する思想の普及に寄与する事業

(公益目的事業 1)

① 秋季慰霊祭の実施

本年度の秋季慰霊祭は、10月29日の土曜日午前10時半より実施した。

参詣者は遺族はじめ、地元出身国会議員、大阪府議会議員、大阪市議員、陸上自衛隊、各種団体から合計300名を超える参詣を頂き、晴天のもと無事に執行できた。

慰霊祭は、全員による国歌斉唱に引き続き、今回も陸上自衛隊の協力を頂き、当墓地に眠る精霊に対しラッパ吹奏「国の鎮め」を吹奏、黙祷の後、本門佛立宗清風寺住職・僧侶の奉仕による読経唱題、吉川理事長による祭文奏上、大阪府遺族連合会岡倉会長による追悼の辞、追悼電報披露、来賓焼香、参詣者焼香へと進み、11時40分に終了した。

② 慰霊祭当日の講演会、写真パネルによる自衛隊の活動紹介について

慰霊祭終了後の午後12時30分より、第二会議室において、NPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会 副理事長の横山篤夫先生を講師にお迎えし、「真田山陸軍墓地について」とのテーマで講演会を開催し、当墓地の歴史的価値の啓発・普及に務めた。慰霊祭参詣者の中で、希望者約30名を越える方に受講を頂き、午後1時30分終了した。

また、当日慰霊祭会場では自衛隊大阪地方協力本部の協力により、写真パネルの展示コーナーを設け、自衛隊の災害派遣活動等の活躍の様子を参詣者に紹介し、紛争や災害のない平和な国づくりと国を守ることの大切さを啓発する一助とした。

この慰霊祭を通じて、今日の我国の平和は過去の幾多の戦争に際し、国を守るために戦い、尊い命を捧げられた将兵や戦没者の犠牲の上に築かれていることを一人でも多くの方に理解頂き、戦没者の崇敬と悲慘な戦争を二度と繰り返さない平和の尊さを尊重する思想の普及に繋がるものと確信する。

③ 万灯会の実施

本年も8月15日夕刻より、恒例になった万灯会を実施し、当墓地に眠る将兵に対し、慰霊供養を行った。今回は、事前に各種団体に協力を呼びかけ、当日までにローソクに和紙を巻く作

業を手分けして行ってもらった。当日は、天候に恵まれ、午後4時から除草及び清掃奉仕を頂き、午後7時にローソクを点灯し、合計150名を超える参加を頂いた。

④諸団体が実施する慰霊行事、個人参拝者の支援

納骨堂や墓碑前で実施される本門佛立宗清風寺、念法真教、天理教はじめ各種宗教団体の月例慰霊法要の湯茶等の接待、自衛隊墓地研修時における献花対応、個人参拝者からの要請に基づく案内等の対応を行った。詳細は事業報告書付表2「関係機関先との折衝及び各種行事への参加状況」参照。

(2) 墓地見学者の案内と学術調査活動により得られた調査・研究成果の啓発と普及を図る事業 (公益目的事業 2)

①真田山旧陸軍墓地の学術的調査活動の推進

当墓地の調査・研究を前年度に引き続き、近現代史研究家等で構成する「NPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会」に委託し、墓碑銘文及び納骨堂の遺骨の調査結果に基づき、埋葬・納骨将兵及び当陸軍墓地の歴史に関する研究を進めた。その成果として、「旧真田山陸軍墓地研究年報4」として提供を受けた。

②墓地見学者に対する案内

当墓地については、これまでの歴史学者や研究者による学術調査・研究活動によって得られた成果、情報を歴史資料として、墓地見学者はじめ、広く一般に公開し、近代日本史に関する学術の振興に寄与することを目的として、見学申込の諸団体は勿論、個人見学者についても、案内に努めた。詳細は事業報告書付表3「主な墓地見学会等の実施状況」参照。

③墓地資料展示室の整備と活用

墓地の案内希望者に対し、当墓地の歴史的価値や概要、また我々の活動を理解頂くため、可能な限り現地案内と共に墓地資料展示室を觀て頂いた。本年度は、京都造形芸術大学より資料展示室のレイアウトの提案があり、展示説明文の更新を行うなど資料展示室の整備を進めている。

④パンフレット等の活用

墓地見学者や問合せのあった個人・団体には、墓地の概要、時代別墓碑例の紹介、当法人の目的・事業内容等を紹介したパンフレットを配布し、当墓地に関する情報の周知・理解に努めた。本年度は、より使いやすく最新の情報を発信できるようにA4サイズのパフレット「真田山旧陸軍墓地」を改定した。

⑤ホームページの活用

ホームページを法人の活動内容の広報の主要手段として、最新情報の掲載と内容の充実に努めた。平成28年4月～平成29年3月の1年間のアクセス件数は6,142件あり、ホームページを見て事務局に問い合わせをする方も多い。そこで、ホームページを改定し、スマートフォンにも対応出来るように対応を進めている。

⑥マスメディアへの対応

本年度は、4月に墓石が倒される事件があったことから、その際にテレビ局は2社、新聞社は3社から取材があった。その他、秋季慰霊祭で新聞社1社、加えて墓地周辺の取材でテレビ局

1社から取材を受けた。

⑦墓地案内人育成のためのマニュアルの作成

近年、墓地見学者も増加していることから、現在の案内人の墓地案内をビデオで撮影し、文章化して、簡易的な墓地説明が出来るよう進めている。

(3) 墓地・墓碑、その他施設の維持及び修復に関する事業(公益目的事業 3)

①劣化の進んだ墓碑の修復・保存活動

当墓地にある墓石の大半が経年劣化により、剥離の進行や倒壊の危機に曝されており、墓碑の劣化進行防止は大きな課題となっている。本年度も強化処理の施工方法を確立した比較的傷みの軽微な墓碑20基の強化処理を実施した。また、本年度も損傷が進行している墓碑の修復・保存方法の技術的検討を進めるべく、京都造形芸術大学歴史遺産学科と委託契約を締結し、劣化進行を防ぐための具体的な保存方法の検討を進めることが出来、倒壊している墓石5基を修復した。

②個人墓碑の建替え希望遺族に対する支援について

自費で墓碑の建替えを希望する遺族からの要請については、建替基準(原状を変更しない条件)を提示し、大阪市長宛に届出に関する支援を行い、墓地景観の維持に努めることとしている。本年度の申請は1件あり、申請に関する対応を行った。建替え工事については、平成29年度以降に実施予定である。

③墓地の除草・清掃等、環境維持活動

大阪市が実施される、植栽の剪定、草刈りの他、陸上自衛隊や諸団体のボランティアの協力を頂き、各団体の奉仕日や担当箇所の調整を行い、墓地の除草・清掃が実施でき環境の維持が図れた。近年は、陸上自衛隊伊丹修親会を始め、中部方面総監部隷下の第三師団や第36普通科連隊の幹部候補生、隊員の研修として、定期的に清掃奉仕に来て頂いており、環境維持に大いに貢献いただいている。また、各種協力団体も頻繁に清掃奉仕にご協力頂き、常に清掃が行き届いている状態を保つことが出来、感謝している。

詳細は事業報告書付表4「墓地の清掃、除草等の環境保全活動の実施状況」参照。

(4) 法人の運営・管理に関する活動状況

① 法令に基づく、法人の運営・管理について

行政庁への事業報告書、事業計画書等の定期提出書類は、法令に基づき遅滞なく届け出を行うと共に、関係法令の遵守に努めた。

② 維持会員の入会促進

財政基盤の安定化を図るため、機会あるごとに広報活動を行い、維持会員の入会勧誘に努めた結果、昨年度末に比べ維持会員数で32名、口数で40口増加した。

その結果、3月末日現在で維持会員数は、法人会員数105法人、個人会員数32名の合計137名、維持会費口数で256口となった。今後も事業内容の充実を図るため、維持会員の入会勧誘につとめる。

③ 寄附金募集の推進

寄附金については、維持会員の入会勧誘同様、機会あるごとにリーフレットを活用し、広報活動に努め勧募を推進。本年度は、大口の寄附金を頂き、活動に対する励みとなった。

④ 墓地管理の強化と環境改善

平成28年4月に墓地の墓石8基が倒される事件があり、墓地を管理している大阪市が天王寺警察署に被害届を提出した。近年、墓地周辺に観光客も多くなり、抜け道として不特定多数の人が墓地を通ることから、警備の強化として平成28年11月より週3日程度で人員を派遣し、墓地内部の見回りや清掃活動を行うようにした。

⑤ 理事会・評議員会の開催

理事会・評議員会については、次のとおり開催した。

・理事会 平成28年4月15日、6月2日、6月17日、10月7日、平成29年2月10日

・評議員会 平成28年6月17日、平成29年2月24日

詳細は事業報告書付表1「理事会・評議員会等の開催状況」参照。

2. 財務状況

本年度は、大口の寄附金を頂き、経常収入・経常費用とも当初予算より大きく増加した。いずれも補正予算を編成し処理を行った。その結果、まず寄附金の内24,000,000円を指定正味財産に計上した。当期経常増減額は昨年度より544,622円増加し、一般正味財産期末残高は、前年度より524,922円増加の1,850,335円(基本財産への充当額410,000円を含む)を計上した。また、正味財産は前年度末に比べ、24,524,997円増加し、28,750,635円となった。尚、発生した黒字については、平成29年度において公益目的事業3の墓石修復作業に充填する予定である。

3. 年度末の役員・評議員・事務局員の状況

平成29年3月31日現在の役員・評議員・事務局員の数は次の通りである。

・理事数 8名 ・監事数 2名

・評議員数 10名

・事務局員数 2名